

自分の考えや思いを英語で伝え合うことに喜びを感じる児童生徒の育成をめざして

越ヶ浜中の
英語の取組

萩市国際交流員（CIR）との交流 ～グローバル人材の育成をめざして～

11月2日（水）、萩市国際交流員の方にゲストティーチャーとしてお越し頂きました。出身の英国やオーストラリアのことを学ぶことはもちろんですが、ALT以外のネイティブスピーカーとの対面機会を与えられたことは、生徒たちにとっても新鮮だったようです。

3年生は、最後に初対面の国際交流員のハナさんと1対1で話す機会が1人につき3分与えられ、ふるさと越ヶ浜について積極的に説明する様子が見られました。先日、総合的な学習の時間で行った「ふるさと学習」の発表が大成功に終わりましたが、言語を英語に変えてもかなりの発信ができるようになりました。



英語を学び、グローバル人材を育成することは大切な目標です。しかし、いざ国外に出たときに、日本や自分の地元のことを聞かれても答えられなければ、本当の意味でグローバルな人材とは言えません。今年度の3年生は、**英語力を高めると同時に、自分のふるさとの魅力を語れる子どもたちの育成**を年間通して実践しており、教科横断的な教育活動の成果が着実に現れ始めています。

また、越ヶ浜中学校では、昨年度から国際教育の一環としてJICAの出前講座を英語の授業で活用するなど、生徒たちが多様な価値観に触れる機会を設けてきました。

今年度は、総合的な学習の時間の導入段階で、全学年でJICAの「SDGs出前講座」を受け、世界的な課題に意識を向けさせることからスタートしました。3年生の「ふるさと学習」も、地元という狭い範囲から徐々に視野を広げていくという発想ではなく、初めに世界規模の広い視野と視点を生徒に与えてから、足元の課題をクローズアップしていくという展開を仕組みました。

今回の国際交流員への協力依頼は、年度当初から位置づけていたものではありませんでしたが、生徒の実態を踏まえた上で、学習効果をさらに上げる場として設定されました。授業本編はオールイングリッシュで行われましたが、日本語が堪能なハナさんにお越しいただき、日本語習得を志した経緯など、言語学習者としての経験についてもお話いただくことで、生徒たちが共感を示す場もみられました。



中学生という多感な時期の子どもたちにとっては、わずか50分という1コマの授業が、人生が変わるほどの時間になることもあるかもしれません。これからも、さまざまな方々の協力を得ながら、生徒たちに新しい学びの機会を提供していけたらと思います。



最後はみんな、いい笑顔！